

## introduction

脚本 田淵久美子  
演出 山田和也が手掛ける  
珠玉の三人芝居が幕を開ける

NHK大河ドラマ「篤姫」「江～姫たちの戦国～」の脚本を手がけ、コメディ作家でもある田淵久美子書き下ろしの完全オリジナル脚本を、ミュージカル『ダンス オブ ヴァンパイア』『ローマの休日』など多数の作品で演出を務める山田和也が舞台へと描き出す。キャストには山口祐一郎、浦井健治、保坂知寿の3名が揃い踏み、軽快に言葉を紡ぎながら人生における永遠のテーマ、「愛」の形を導きだしていく。傍目には微笑ましいほどに仲良く喧嘩するフタりのオトコとそれを見守る一人のオンナがキャンパスに描き出す、珠玉のエンターテインメント・コメディにどうぞご期待ください。



## story

物語はある画家のアトリエから始まる――。

キャンパスに絵筆を走らせているのはその主、ぜんじょうし きょういちろう禅定寺恭一郎(山口祐一郎)。

「先生、お茶が入りました」

その声かけに絵筆を止め、家政婦のなむら よしこ中村好子(保坂知寿)が運んできた薔薇のお茶を口にします。

「ところで先生、こちらの作品にはいつおかりになるんですか？」

好子の目線の先にはまっ白のキャンパスが置かれている。

「愛、ねえ…」

女性には不自由しない恭一郎だが、“愛”をテーマに、と引き受けたこの作品にはなぜか取り掛かることができなかった。

そこには誰にも言えない、言ったところで信じてはもらえないだろうある理由があったのだ。と、ドタバタとうるさい足音が彼の思考を遮る。

「禅定寺恭一郎さんですか？」

息を荒げながら一人の若者がアトリエに踏み込んでくる。

すどう どうま「須藤冬馬(浦井健治)と言います。僕は…母を探しに来たんです。母を出せ、今すぐに！」

訳が分からない恭一郎と好子、しかし冬馬と名乗る青年は怒りの表情を携えたまま、恭一郎をまっすぐ睨みつけるのだった――



音楽監督:江草啓太 美術:伊藤雅子 照明:服部基 音響:山本浩一 衣裳:前田文子 ヘアメイク:川端恵理子(スタジオAD)  
舞台監督:山本圭太 演出助手:末永陽一 制作:渡邊隆 制作助手:上村幸穂/渡辺桃子 プロデューサー:服部優希/馬場千晃  
宣伝美術:菅沼結美(TOHOマーケティング) 宣伝写真:村尾昌美

2020年12月12日(土)～30日(水)

一般前売開始 11月7日(土)

	12/12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
13:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

料金 11,000円(全席指定・税込)



日比谷  
シアタークリエ

THEATRE CREATION

〒100-0006 千代田区有楽町1-2-1 Tel:03(3591)2400